

(1) キャリア教育の推進

キャリア教育は、子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の一員としての自分の役割を果たしていくために必要な基盤となる能力や態度を育成していくことを目指す教育活動です。

社会人・職業人として自立するためには、「基礎的・基本的な知識・技能」や「論理的思考力、創造力」、「専門的な知識・技能」などとともに、相手の考えや立場、周囲の状況を理解しながら人間関係をつくりあげていく力（人間関係形成・社会形成能力）や、自分を高めながら様々な課題を発見し解決していく力（課題対応能力）など、様々な能力を必要とします。

こうした能力は、子どもたちの成長過程と深く関わりながら段階を追って発達していくものです。したがって、キャリア教育は小学校、中学校、高等学校等の初等中等教育段階を通して、学校段階ごとの取組を考え、それらを系統立ててつながりのあるものとして行っていくことが大切です。

本県では、これまで全公立中学校における職場体験や、専門高校を中心としたインターンシップ等を実施してきました。キャリア教育においては、子どもたちが実社会を体験し、それを基に将来の職業や生き方について自ら考える活動は大きな意義があります。今後、これらの取組を、小学校や高等学校普通科、特別支援学校も含めた取組として地域や産業界の協力を得ながら計画的に実施していく必要があります。

そこで、発達段階に応じ、社会的・職業的自立に向けて必要となる諸能力と勤労観・職業観を育むキャリア教育を推進していきます。

取組の方向と施策の展開

キャリア教育の推進体制づくり

小学校から高等学校（特別支援学校は小学部から高等部まで）まで、発達段階に応じ系統的なキャリア教育を計画的・組織的に推進するため、産業界をはじめ関係諸団体等の助言や協力を得るための協議の場を設けます。また、全ての学校でキャリア教育を実施するための体制づくりを推進します。

小・中・高等学校、特別支援学校の子どもたちが、発達段階に応じて自分自身の成長を確かめ、自らの将来について考えるための個々の児童生徒に応じたワークシート形式の県独自による「キャリア教育ノート」を作成し、活用できるようにします。

教育界と産業界をつなぎキャリア教育に有用な情報やノウハウを蓄積した教育コーディネーター人材を育成し、コーディネーター活動を実施します。

企業の協力の在り方や学校との連携の進め方などを体系化した、産業界のキャリア教育参画プランを作成・普及するとともに、インターンシップ等の受入れや社会人講師の派遣に協力する事業所などを「あいち夢はぐくみサポーター」として広く募集し、各学校で活用するなど、子どもたちの発達段階に応じ

たキャリア教育に対する産業界からの協力・参画を促進します。

子どもたちが将来、性別によってその可能性が狭められることなく育ち、個性と能力を発揮できるようにするとともに、子どもたちから男女共同参画に対する理解を促進し、将来を見通した自己形成ができるよう、広報・啓発活動を行います。

コラム

せとがまるっとセンセイになるとき

瀬戸市では瀬戸商工会議所を中心に、「せとがまるっとセンセイになるとき」を合言葉として、教育委員会、小・中学校、企業、商店街などが一体となり、子どもたち一人一人が自らの生き方を考え、自ら行動できるように育つことをめざし、キャリア教育に取り組んでいます。

瀬戸商工会議所に配置された「教育コーディネーター」が、学校と地域の仲人役として、市民講師の派遣や教育プログラムの提供を行っています。

プログラムのひとつ「プロジェクトベース学習」では、本山中学校の生徒が地場産業である「やきもの」の企画・製造・販売を通じて1年間の実践学習を行っています。湯飲みや置物の製作過程では、瀬戸で活躍する陶芸家や製陶所が協力して本格的なやきものを作製します。また、中学2年生が行う職場体験活動の事前・事後の学習では、地元産業界が市民講師として関わっています。

子どもたちからは「社会の厳しさやチームワークの大切さ、積極的に行動する重要さがわかった。」「親の苦勞を学び、働くことの尊さがわかった。」などの感想があり、保護者からは「親子で将来について話す機会が増えた。」という声が多く聞かれています。

子どもたちを受入れる企業は、職場体験が効果的なものとなるよう、体験提供のみならず、生きがいや働きがいを直接伝えることができるような工夫を積極的に行っています。

キャリア教育を通じて未来を担う子どもたちが夢の実現に向けて努力してくれることを願い、これからも推進していきたいと考えています。【瀬戸市、瀬戸商工会議所】



やきもの作製の指導

職場体験活動・インターンシップ等の推進

小学校において、地域探検や農業体験などの体験活動を学年に応じて行うとともに、特に高学年においては、愛知の誇るモノづくりの達人が、モノづくり体験を通じて自分の生き方や職業への考え方を子どもたちに語る機会を提供します。

これまで全公立中学校で実施してきた職場体験活動（「あいち・出会いと体験の道場」）を引き続きキャリア教育の大きな柱として位置付けるとともに、職場体験の前に生徒が体験内容を調べたり、職場体験の後に生徒が体験した内容を発表したりするなど、事前・事後指導の充実を図り、その教育的効果を高めます。



職場体験活動（美容師）

高校生が自らの在り方生き方を具体的に考え、主体的に進路選択する力を養うため、社会の第一線で活躍する社会人講師を積極的に活用するとともに、産業界と連携して普通科を含めた全ての県立高等学校でインターンシップ等を実施します。



病院でのインターンシップ

上級学校を卒業した後の社会人としての生き方を意識させるため、高校生が大学の学びに触れることを通して、自らの視野を広げ、生涯を見通した一人一人のキャリアプランニングについて考える機会を提供します。また、普通科の高校生に限らず、専門学科の高校生にも積極的にその機会を提供し、幅広い進路選択ができるよう努めます。

高等学校を卒業後、就職する生徒も多いことから、愛知労働局（公共職業安定所）との連携の下、職業教育を充実させ、働く人の権利について生徒や教員への意識啓発に努めます。

特別支援学校において、小学部では社会参加活動や校外学習などを通して働くことに対する興味・関心を高め、中学部では就労の準備体験として地域の職場の見学や簡単な作業などの体験を行い、高等部では産業現場等における長期間の実習を行うなど、小学部から高等部まで、発達段階に応じたキャリア教育を推進します。

県立の大学において、キャリア支援教育を充実し、学生の就業力を高めます。

県内にある大学に通う大学生を、中小企業へインターンシップに派遣する取組を推進します。

多様なニーズに対応した就業支援の充実

個人・社会のニーズに対応するため、支援の必要な若年者や子育て等で離職した女性等に対して、個人の能力や適性、経験などに応じた、就労等に関する相談窓口の強化、離職者向けの職業訓練を行います。

キャリア教育・職業教育・産業教育の違いについて

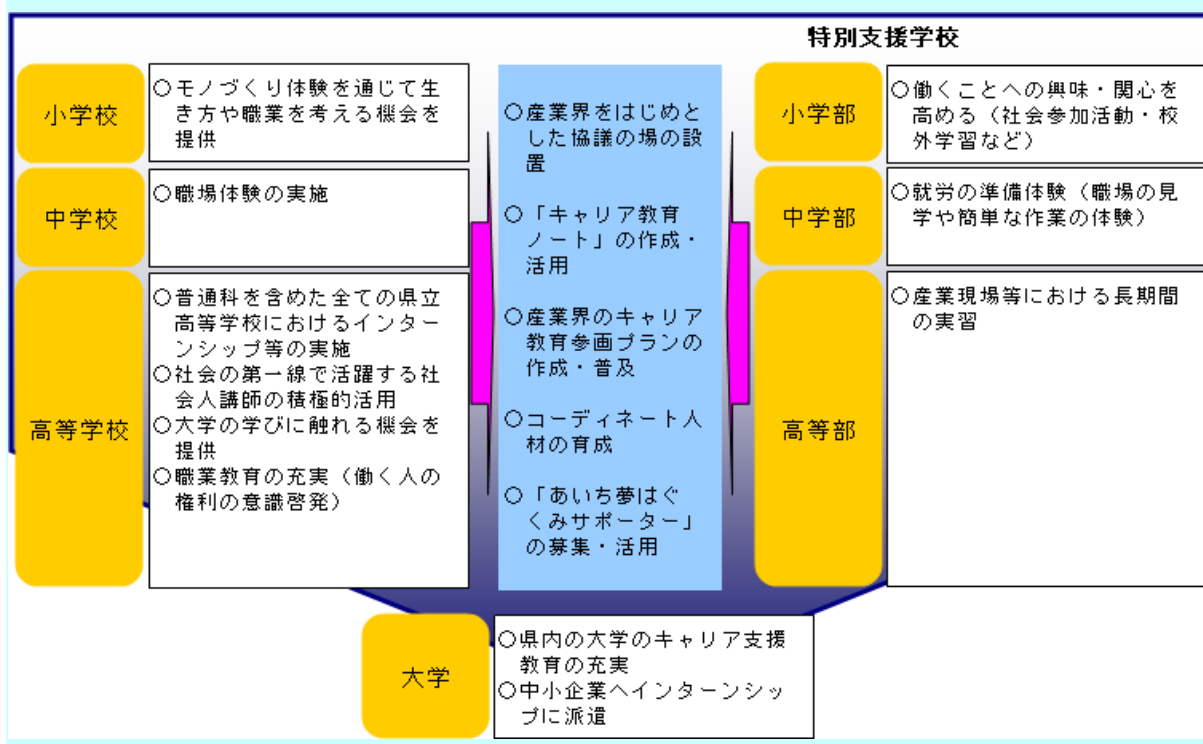
キャリア教育は、文部科学省の「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」によると、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」としています。そのため、特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通して実践されるものであります。

職業教育は、「一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育」としており、学校教育のみで完成するものではなく、生涯学習の観点を踏ま

えた教育の在り方を考える必要があるとされています。また、社会が大きく変化する時代においては、特定の専門的な知識・技能の習得とともに、多様な職業に対応しうる、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力の育成も重要であり、この能力は、具体の職業に関する教育を通して育成していくことが極めて有効であるとしています。

産業教育は、産業教育振興法第2条によると、「中学校（中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。）、高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）、大学又は高等専門学校が、生徒又は学生等に対して、農業、工業、商業、水産業その他の産業に従事するために必要な知識、技能及び態度を習得させる目的をもって行う教育（家庭科教育を含む。）」をいい、高等学校の専門学科を中心に行われています。

発達段階に応じたキャリア教育（イメージ図）



(2) 産業教育の充実

産業は、人々の生活に必要なものを産み出し、提供する活動であり、農業、林業、工業、商業、水産業等、様々な分野があります。経済のグローバル化が進む中、厳しい競争や消費者ニーズの変化に適応していくためには、それぞれの産業分野に必要な専門的な知識や技術・技能を有し、かつ変化に適応できる人材を育成していくことが必要となっています。

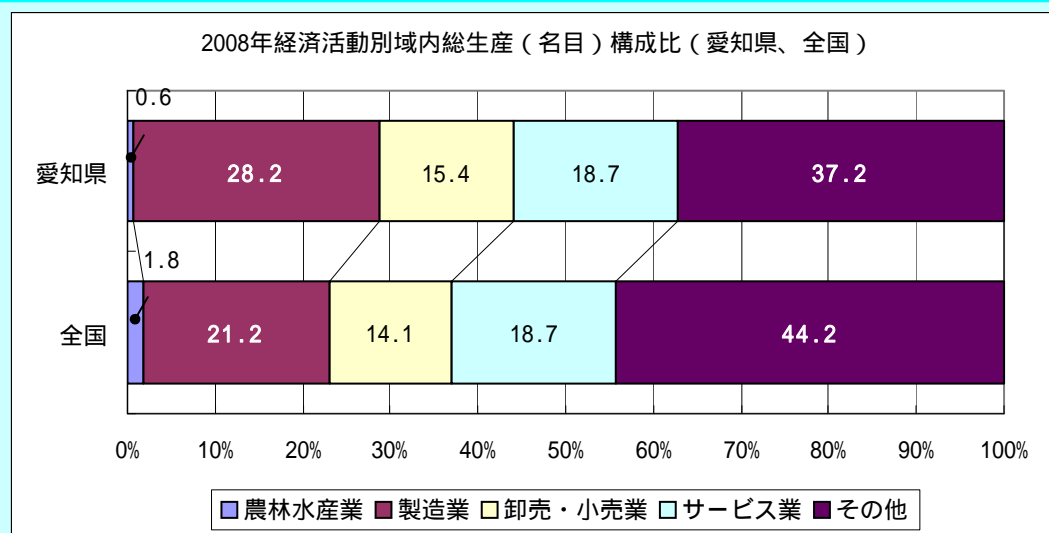
本県は、「モノづくり愛知」と言われるとおり、製造業を中心に様々な産業が集積した全国有数の産業立県であり、優れた技術・技能を有する人たちが地域の産業を支えて活躍しています。

しかし近年、産業構造や雇用形態の変化など、各産業を取り巻く状況は大きく変容しつつあります。また、農林水産業において家業を継ぐ人が減少していることや、製造業において、従業員の高齢化が進み、技能職・技術職志望の若者の減少などあいまって、「匠の技」ともいわれるモノづくりの優れた技術・技能の継承が困難になりつつあるなど、多くの産業で後継者の育成が課題となっています。

本県では、子どもたちのモノづくりへの関心・意欲を高めるため、地域の優れた熟練技能者を学校に派遣したり、専門高校生が地域の企業において長期間にわたり実習を行ったりするなどの取組を進めてきました。また、現在、本県の工業教育の中核となる新しい高等学校の設置に向け、準備を進めています。

そこで、地域や産業界のニーズを踏まえながら高等学校における各産業分野の専門教育の一層のレベルアップを図るとともに、地域の企業や経済団体、大学や専門学校等との連携を強化するなど、時代の変化に適切に対応しながら本県の産業を支えていくことのできる人材の育成を図っていきます。

本県の産業について



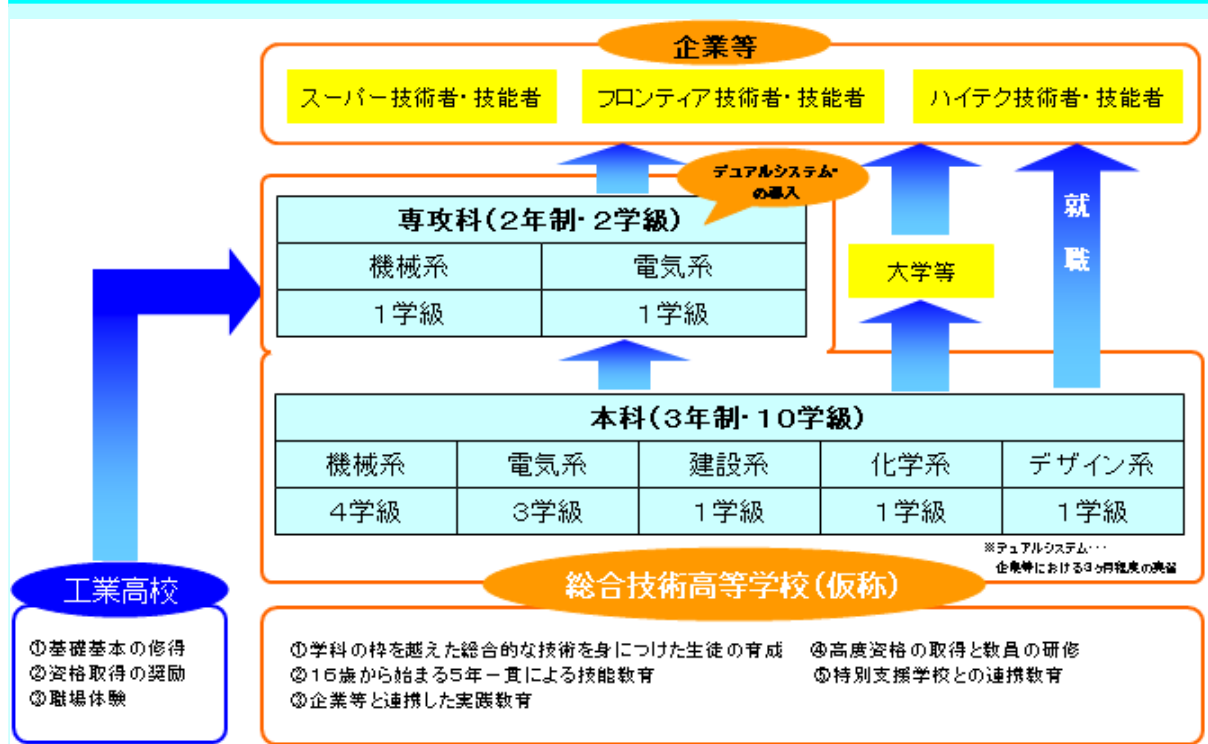
（県民経済計算（愛知県）、国民経済計算（内閣府） 県は年度、国は暦年）

取組の方向と施策の展開

高等学校における産業教育の充実

本県工業教育の一層のレベルアップを図るため、工業高等学校の中核となる総合技術高等学校（仮称）を新設します。

総合技術高等学校（仮称）のイメージ



県立高等学校専門学科等の設備について、各学校の実情に応じた重点的な整備を行うなど、計画的かつ効果的な整備を図ります。

技術・技能を生徒に習熟させるため、引き続き一定の職業資格を取得した高校生を顕彰するとともに、県独自の検定試験を実施します。

「地域振興」や「観光」など、産業構造の多様化に対応した教育課程を実施します。

高等学校・高等技術専門校・企業の連携強化

専門高校生に優れた技術を習得させるため、地域の企業等から高等学校に技術者などを派遣したり、専門高校生を地域の企業等に長期間にわたり派遣し現場実習したりするなど、高等学校と企業との連携強化に取り組みます。

工業高校生の技能検定資格取得を促進するため、県立高等技術専門校の施設と企業の熟練技能士を活用して、実践的な技能実習を行います。

人材育成機能の強化

県立高等技術専門校の訓練をモノづくり関連分野に特化しつつ充実するとともに、県立高等技術専門校と愛知県産業技術研究所の連携を深めるなど、技術者・技能者の人材育成機能を強化します。

中小企業向けの人材育成モデルの作成や、多様な訓練科目をもつ民間教育訓練機関との連携強化、県立高等技術専門校におけるオーダーメイド訓練の充実などにより、職業能力開発の多様化、底上げを図り、中小企業の人材育成を支援します。

技術・技能を尊重する機運の醸成

専門高校の魅力を、中学生をはじめ広く県民に伝えるために、産業教育の祭典「あいちさんフェスタ」や平成25年に全国産業教育フェア愛知大会を開催するなど、専門高校の教育活動を広報します。

平成26年の技能五輪全国大会・全国アビリンピックにおいて、小・中学生にも競技の内容が理解でき、かつ楽しく見学できるような環境を整備するとともに、子ども・若者向け関連事業を推進します。

技能五輪全国大会について

・本県選手の成績

	大会の開催状況		本県の参加状況			本県の入賞状況						
	競技職種	参加選手	参加職種	参加選手	全国順位	金賞	全国順位	銀賞	銅賞	敢闘賞	合計	全国順位
第48回 平成22年度	39 職種	1,028 名	23 職種	131 名	1位	7職種 7名	1位	10職種 14名	11職種 15名	14職種 29名	19職種 65名	1位
第47回 平成21年度	40 職種	983名	23 職種	132 名	1位	12職種 13名	1位	11職種 15名	15職種 19名	15職種 29名	21職種 76名	1位
第46回 平成20年度	39 職種	953名	23 職種	134 名	1位	11職種 11名	1位	14職種 22名	14職種 21名	11職種 27名	21職種 81名	1位
第45回 平成19年度	43 職種	980名	23 職種	121 名	1位	12職種 12名	1位	11職種 17名	16職種 32名	9職種 18名	20職種 79名	1位
第44回 平成18年度	45 職種	1,158 名	23 職種	120 名	1位	9職種 12名	1位	16職種 22名	13職種 17名	9職種 19名	19職種 70名	1位

(参加者の全国順位は大会参加者数から、金メダル受賞者は、競技職種1位の合計人数から、入賞者の全国順位は入賞者の合計人数から、本県が算出したものです。)

・最近の都道府県選手団賞

	開催地	最優秀技能選手団賞	優秀技能選手団賞		
第48回(平成22年度)	神奈川県	愛知県	茨城県	神奈川県	新潟県
第47回(平成21年度)	茨城県	愛知県	茨城県	神奈川県	東京都
第46回(平成20年度)	千葉県	愛知県	東京都	茨城県	山口県
第45回(平成19年度)	千葉県	愛知県	東京都	茨城県	山口県
第44回(平成18年度)	香川県	愛知県	香川県	東京都	茨城県

(優秀技能選手団賞の掲載順は大会公式発表によるもの)

県立高校専門学科について

実験・実習を積極的に取り組んだり、インターンシップや職業資格取得などに取り組んだりすることによって、将来のスペシャリストとして必要な基礎的・基本的な知識や技術を身に付けることができます。

大学などで、高校で学んだ専門的な知識や技術の深化を図ることができるように、専門課程のほかに進学に必要な教科・科目の学習をすることができます。

学科名	主な学習内容
農業	農作物の栽培や家畜の飼育などの実習、バイオテクノロジーや食品産業、環境保全などについての学習を行います。
工業	機械・自動車・電気などに関する知識や技術を身に付けます。また、高度情報化に対応した学習も行います。
商業	ビジネスに必要なコミュニケーション能力や流通・経営などの知識を身に付けたり、経済の国際化や情報化に対応した学習を行ったりします。
水産	「海、水産物、船」を素材とした学習（実習）を行います。その中で資源管理や海洋環境、通信技術についても学ぶことができます。
家庭	調理やファッション、住環境などの衣食住に関する知識や技術を身に付けたり、保育、家庭での看護や福祉関係の学習を行ったりします。
看護	中学校卒業後に最短期間で看護師になれるよう、高等学校本科と専攻科を併せた5年間一貫の看護教育を行います。
福祉	福祉に関する専門的知識と技術を身に付けたり、介護福祉士国家試験に対応した学習を行ったりします。

その他にも、美術科・音楽科・国際教養科・英語科・スポーツ科学科があります。

(3) 世界を舞台に活躍できる人づくり

中国や東南アジアなどの新興国に加え、中東、ロシアなどの資源国が高い成長を遂げるなど、経済のグローバル化の動きは近年さらに加速しています。このような状況の下、我が国の知恵と経験を生かし、国際機関や各国との協力や連携により、国際的な取組を進めていくことが重要です。

また、国際社会においては、子どもたちが日本人としての自覚をもち、主体的に生きていくうえで必要な資質や能力を育成していくことが大切です。そのためには、我が国の歴史や文化、伝統などについての理解を深めるとともに、広い視野をもって異文化を理解し、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていくための資質や能力を育成することも重要です。

本県は、愛知万博や COP10 の開催などを契機に、先端科学技術の開発や地球環境の保全等の国際的な課題に対して、子どもたちが興味・関心をもち、将来その課題解決に向けて積極的に取り組もうとする意欲や態度の育成に取り組んできました。

そこで、子どもたちから地球的視野に立って主体的に行動するために必要な態度・能力を育み、世界を舞台に活躍し、信頼され、世界に貢献できる人材育成に取り組んでいきます。

取組の方向と施策の展開

外国語教育・国際理解教育の充実

児童生徒が、外国で実際にコミュニケーションがとれるよう、外国青年語学講師などを学校へ配置します。また、外国青年語学講師を授業で活用することによって、児童生徒が外国語の音声に慣れ親しみ、言語や文化への理解を深めるなど、外国語を学ぶことへの児童生徒の興味・関心を喚起します。



ALT による授業

国際交流活動を行うなど、児童生徒が外国の文化にふれる機会を一層充実していくことにより、発達段階に応じた国際理解教育を進めていきます。

高等学校に設置されている英語科や普通科の国際理解コースなどにおいて異文化や国際理解に関する専門的な教育を実施していきます。また、アジア諸国との交流の拡大を踏まえ、高等学校において、中国語や韓国・朝鮮語なども選択して学習できる機会を充実します。

国際社会で日本人としての自覚をもてるよう、小・中・高等学校、特別支援学校で、日本の歴史や伝統文化を学んだり触れたりする機会を充実します。

持続発展教育（ESD）の推進拠点であるユネスコスクール¹の加盟校増加に

¹ユネスコスクール：ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校で、世界 180 の国・地域で 8,500 校以上が加盟している。

取り組むなど、世界の子どもたちと交流する機会を充実します。

県立大学をはじめとする県内の大学と連携を強化して、英語教育に関する教員の研修を充実します。

表現力の育成

児童生徒に言葉の魅力や楽しさを味わわせ、言葉に対する興味・関心を高めるとともに、国語力を向上させるために、国語科や総合的な学習の時間をはじめ全教科・領域において、話し合い活動やプレゼンテーション、物語の創作やレポート作りなど、豊かな言語活動が推進されるよう支援します。

世界で活躍できる知性や技術・技能の育成

数学オリンピックや物理オリンピックなどの世界大会に出場する高校生を育てたり、専門高校において、将来、技能五輪大会などへの出場を目指す生徒を育てたりするなど、大学や外部の研究機関、企業等と連携しながら、我が国及び本県の学術研究や技術開発を支える高い知性や技術・技能を身に付けた人材の育成を図ります。

コラム Speak Up!

東海市立上野中学校では、「国際社会にはばたける生徒の育成」をテーマとして、海外との交流や英会話能力の向上に取り組んでいます。

海外との交流では2年生の生徒をオーストラリアに派遣したり、ビデオチャットを使ってアメリカの子どもたちとの交流を行ったりしています。一方で、海外派遣を終えた生徒から「海外のことを知る前に、自分の国のことを知らなければいけないと思った。」といった報告があり、海外に出て行ったときに日本の文化を紹介することができるようにと、地域の方を講師に招き浴衣の着付けを習っています。

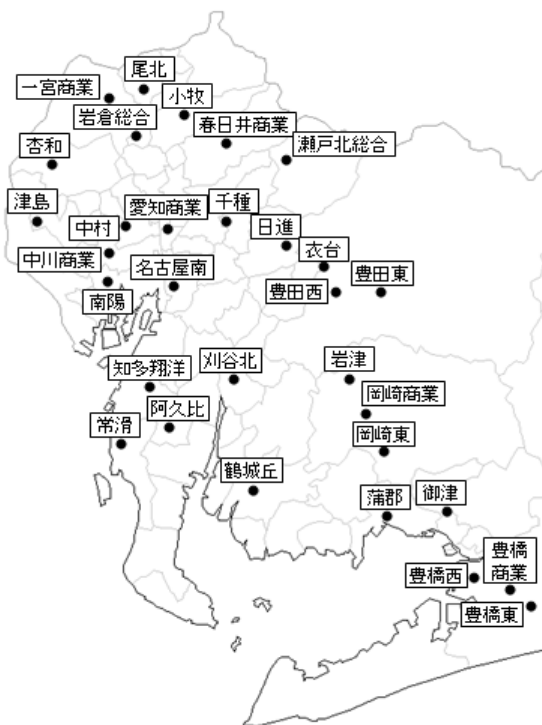


セントマークス校の生徒とともに学ぶ

英会話能力については、英単語や標語、英語の絵本などを廊下や階段に貼り、日本語禁止の渡り廊下を設定するなど、学校中いたるところに英語があふれている状況の中で、生徒たちが自然に日常の英会話を身に付けていけるよう工夫がされています。また毎週金曜日には始業前の時間を利用して、全生徒と担任が英会話を学ぶ時間が設けられており、日常の家族の短いやりとりなどを、発音練習に近い形で学んでいます。

平成 22 年 6 月にはアメリカにあるダラスのセントマークス校から 8 名の生徒が来校し、1 週間ほど通学しました。保護者宅にホームステイをして、ホストファミリーの生徒とともに授業に参加しました。校内のいたるところで生徒と彼らが英語で話す姿が見られ、交流が盛んに行われました。まさにスピークアップする生徒でした。【東海市立上野中学校】

県立高等学校における国際理解教育の取組について



学科・系列・コース等（平成23年度）

尾北：英語科
 一宮商業：国際ビジネス科
 小牧：外国人生徒及び中国帰国生徒等選抜実施
 岩倉総合：国際ビジネス系列、語学コミュニケーション系列
 春日井商業：国際ビジネス科
 瀬戸北総合：国際教養系列
 杏和：国際理解系列
 津島：国際理解コース
 中村：海外帰国生徒選抜実施
 愛知商業：国際ビジネス科
 千種：国際教養科、海外帰国生徒選抜実施
 中川商業：国際ビジネス科
 南陽：人文国際系列
 名古屋南：外国人生徒及び中国帰国生徒等選抜実施
 日進：国際コミュニケーションコース
 知多翔洋：異文化理解系列、国際ビジネス系列
 阿久比：国際コミュニケーションコース
 常滑：国際理解コース
 衣台：外国人生徒及び中国帰国生徒等選抜実施
 豊田西：海外帰国生徒選抜実施
 豊田東：国際コミュニケーション系列
 鶴城丘：国際ビジネス系列
 刈谷北：国際理解コース、海外帰国生徒選抜実施
 岩津：調理国際科
 岡崎商業：国際ビジネス科
 岡崎東：国際理解系列
 蒲郡：国際文化系列、国際ビジネス系列
 御津：英語科
 豊橋西：外国人生徒及び中国帰国生徒等選抜実施
 豊橋商業：国際ビジネス系列
 豊橋東：海外帰国生徒選抜実施、国際理解コース

県立高等学校の国際交流

昭和：カナダの高校と姉妹校提携、カナダへ語学研修
 中村：オーストラリアの高校と姉妹校提携
 尾北：カナダの高校と姉妹校提携、米国の高校と学校間交流
 大府：カナダの高校と姉妹校提携
 碧南工業：米国の高校と姉妹校提携
 安城東：オーストラリアの高校と姉妹校提携
 加茂丘：米国の高校と姉妹校提携
 成章：米国の高校と姉妹校提携
 常滑：オーストラリアの高校と相互の学校訪問、英国への語学研修
 豊橋南：オーストラリアの高校と相互の学校訪問、カナダへ語学研修
 津島：オーストラリアの学校と学校間交流
 阿久比：カナダへ語学研修
 時習館：イギリスの高校と相互の学校訪問
 刈谷北：韓国へ語学研修
 木曾川：ニュージーランドの高校と姉妹校提携
 大府東：オーストラリアの高校と姉妹校提携
 豊田東：オーストラリアの女子高と姉妹校提携
 安城農林：フランス・中国の農業高校と姉妹校提携
 豊橋商業：米国の高校と姉妹校提携
 渥美農業：オランダの高校と姉妹校提携
 半田東：オーストラリアへ語学研修
 刈谷：英国の高校とスポーツ交流・文化交流
 豊田南：米国の高校と姉妹校提携
 蒲郡東：オーストラリアの高校と姉妹校提携、ニュージーランドの高校と学校間交流
 千種：ニュージーランドへ語学研修
 天白：米国の高校と相互の学校訪問
 御津：オーストラリアの高校と姉妹校提携、オーストラリアへ語学研修
 足助：ニュージーランドの高校と学校間交流
 岡崎西：ニュージーランドと学校間交流
 福江：カナダへ語学研修

3 学習意欲の向上を図り確かな学力を育成します。

取組の柱	取組の方向
個に応じたきめ細かな指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かな指導の充実 ・全国学力・学習状況調査の活用 ・学ぶ楽しさを味わわせる取組の充実 ・若い世代の教員の授業力の向上
魅力ある県立学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様なニーズへの対応の充実 ・魅力と特色ある学校づくり ・高大連携による学習意欲の向上 ・中高一貫教育の実施
理数教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心、知的探究心を高める取組の推進 ・高等学校の高度な理数教育の推進 ・教員の資質向上
読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しむ態度の育成 ・図書館機能の向上 ・関係機関の連携・強化
情報教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・情報活用能力の向上 ・わかりやすく理解が深まる授業への支援の充実
多文化共生社会の実現に向けた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における外国人児童生徒への対応の充実 ・地域における日本語学習等支援の充実 ・国際理解教育の充実
特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育体制の充実 ・知的障害養護学校の過大化の解消と整備構想等の検討 ・地域での自立に向けた支援 ・早期からの特別支援教育の充実